

## 研究会開催通知

(昭和 53 年 12 月 15 日～昭和 54 年 1 月 31 日)

研究会	日	時	会場	備考
マイクロコンピュータ	12月18日(月)	14:00～17:00	機械振興会館	前号参照
データベース管理システム	1月18日(木)	14:00～17:00	同上	下記参照
人工知能と対話技法	1月27日(土)	13:30～16:30	大阪大学	同上

### ◆ 第 11 回 データベース管理システム研究会

(主査: 穂鷹良介, 代表幹事: 植村俊亮)

- 日時 昭和 54 年 1 月 18 日 (木) 午後 2 時～5 時  
会場 機械振興会館地下 3 階 2 号室  
〔東京都港区芝公園 3-5-8, 地下鉄: 日比谷線神谷町, 都営 1 号線大門, 都営 6 号線御成門下車, 国電: 浜松町下車, バス: 新橋一渋谷線東京タワー, 等々力一東京駅八重洲口線 1 丁目下車, Tel. 03 (434) 8211〕
- 議題 (1) CODESYL 型データベースシステムによる大量データ処理  
五十嵐謙二 (共栄火災システム部)  
〔概要〕 CODASYL 仕様に基づくデータベース管理システムを損害保険業 EDP の中枢におき, 大量データ処理を行うまでの経過と, 利用者の立場でみた大量データ処理の問題点およびその対応について報告する。
- (2) 関数従属性を組込んだデータ言語の構成  
安達 淳, 齊藤忠夫, 猪瀬 博 (東大・工)  
〔概要〕 自動的な表の join 操作を行うような問合せ処理機能を持つ関係モデル・データ言語の構成例について述べる。
- (3) DEIMS-2 について 鈴木健司 (電電・横須賀通研)  
〔概要〕 横須賀通研で開発した CODASYL データモデルに基づくデータベース管理システム (DEIMS-2) の開発経緯, 機能, 概要, 特徴等について紹介する。

### ◆ 第 9 回 人工知能と対話技法研究会

(主査: 田中幸吉, 代表幹事: 白井良明, 田村進一)

- 日時 昭和 54 年 1 月 27 日 (土) 午後 1 時半～4 時半  
会場 大阪大学・基礎工学部 情報ゼミナール室  
〔大阪府豊中市待兼山町 1 の 1, 阪急宝塚線石橋駅下車 徒歩 20 分  
Tel. 06 (856) 1151〕
- 議題 (1) 関係データベースにおける全称記号を含む質問の一処理方式について  
古川康一 (電総研・ソフトウェア部)  
〔概要〕 関係データベースに対する全称記号を含む質問を効率が良く, しか

も人間にとって理解の容易な検索プログラムに変換する方式について述べる。

(2) Voice Q-A System の言語処理について

鹿野清宏 (電電・武蔵野通研)

〔概要〕 新幹線の座席予約を例にとりあげた会話音声による質問回答システム (Voice Q-A System) の言語処理について紹介する、

(3) 多重2値論理とその導出 志村正道 (東工大・工)

〔概要〕 2値論理を多重に含むような論理系を定義し、この論理系の諸性質を考察するとともに、その導出方法を論ずる。

## 論文賞候補の論文推薦のお願い

昭和 53 年度論文賞の候補論文をご推薦下さい。

下記選定条件および関係規程をご参照の上、官製はがきに、推薦する論文の題名、著者名、掲載巻号、論文の専門分野、推薦理由および推薦者住所氏名をお書きになりご推薦下さるようお願いいたします。推薦にあたっては、推薦する論文の発行年月 (期間外のものは無効) にご注意下さい。

### 論文選定条件

#### 1. 選定範囲および推薦数

昭和 52 年 10 月から 53 年 9 月までの間に本学会誌「情報処理」(Vol. 18, No. 10 ~ Vol. 19, No. 9) に発表された論文の中から 1 編。

#### 2. 推薦方法

官製はがきに所定の事項をもれなく記入の上、本会宛お送り下さい。

#### 3. 推薦資格

本会正会員に限ります。

#### 4. 締 切 日

昭和 54 年 1 月 31 日 (水)

#### 5. 送 付 先

(社) 情報処理学会 論文賞係

〒 105 東京都港区芝公園 3-5-8 機械振興会館

### 表彰規程 (抜粋)

#### 第 2 章 論 文 賞

1. 論文賞は、本会の機関誌に発表された論文のうちとくに優秀なものを選び、その著者に贈呈する。
2. 表彰する論文は、原則として毎年 3 編とするが、編数は事情により変更することができる。
3. 選定の対象となる論文は、表彰の時期の前前年の 10 月から前年の 9 月までの間に発表されたものであることを要する。
4. 表彰する論文が共著の場合は、共著者全員を表彰する。
5. 論文賞は、同一著者に重ねて授賞しても差支えない。
6. 論文賞は、賞状および賞金とする。
7. 賞金は、論文一編につき 30,000 円とする。

## 「ソフトウェア工学シンポジウム」案内

ソフトウェアの具体的開発過程に際しては、多数のツールが利用されている。本シンポジウムでは、一般的に世にあるツールの単なる羅列ではなく、改めて「ソフトウェア・ツールとは何か」を問い、その背景にある思想と実体とを国際的視野から明らかにしたうえで、実際の効用、限界など適切な批判と将来の展望を参加者の活発討論により深めようとするものである。

テーマ：「ソフトウェア・ツール」

—ソフトウェア開発諸段階における最新技術—

日 時：昭和 54 年 1 月 31 日（水）午前 9：30～午後 5：00（予定）

2 月 1 日（木）

2 月 2 日（金）

（参加者の交流を深めるため、2月1日夕方、レセプションを開催致します）

場 所：機械振興会館 大ホール（地下2階）

協 賛：電気学会、電子通信学会（予定）

参加費：情報処理学会員、協賛学会員 12,000 円

非会員 18,000 円

（レセプション参加費 3,000 円は別途頂きます）

**Proceedings**：参加者には、当日、会場にてお渡し致します。

問合せ：情報処理学会事務局

### プログラム

#### 開会講演

- ・ソフトウェア・ツールの位置づけ (東大 国井)

#### セッション 1 基調講演（ソフトウェア・ツールの理論と実際）

- ・プログラミングの形式化とソフトウェア・ツールのありかた (京都産大 謝)
- ・ソフトウェア・ツールの実際 (東工大 木村)
- ・ソフトウェア開発用ツールの実用化上の諸問題 (日電 水野)

#### セッション 2 設計用ツール

- ・設計用ツールの現状と将来方向 (日電 東)
- ・設計用言語 SPECIAL について (東大 国井, 北川)
- ・データの流れによる設計のための設計言語 (日電 紫合)

#### セッション 3 基本ソフトウェアの記述ツール

- ・システム記述言語の最近の傾向 (日立 中田)
- ・システム記述言語の記述性 (青学大 井田)

#### セッション 4 応用ソフトウェアの記述ツール

- ・SDSS について (富士通 竹内, 落合)
- ・実時間制御システムの要求定義について (東芝 松本)
- ・要求記述の検証 (京大 阿草, 伴, 大野)
- ・UMS の開発について (日科技研 恒川)

#### セッション 5 ソフトウェア製造ツール

- ・ソフトウェア製造ツールの最近の傾向 (東大 和田)
- ・COBOL コード生成プログラム (ユニバック 山崎)
- ・DEMOS-E の NC プロセッサ・ジェネレータ (横須賀通研 藤田)

#### セッション 6 デバッグとテストのツール

- ・テスト支援ツール—そのサーベイ (日電 宮本)
- ・テスト・マネージャとその利用 (JMA システムズ 小太刀)

#### セッション 7 ソフトウェアの解析と評価のツール

- ・データ・フロー解析 (慶大 原田)
- ・プログラムの動的解析と評価のツール (九大 牛島)

#### セッション 8 ソフトウェア・メインテナンスの基本と実際

- ・NHK におけるシステム・メインテナンスの実際 (NHK 大島)
- ・VM/CMS によるプログラムのメインテナンス (日本 IBM 山谷)

#### セッション 9 プロジェクト管理のツール

- ・階層的プロジェクト管理支援 (日電 岩元)
- ・ソフトウェア一貫生産システム (東芝 佐々木)

昭和 年 月 日

## ソフトウェア工学シンポジウム参加申込書<sup>(注1)</sup>

標記シンポジウムの参加を下記によって申し込みます。(該当するものを○印でかこむ。)

(1) 参 加 費

正会員, 賛助会員 <sup>(注2)</sup>	12,000 円
協賛学会員	12,000 円
非 会 員	18,000 円

(2) レセプション 3,000 円 (参加 不参加)

(3) 送 金 方 法

a. 現金書留 (同封)

b. 銀行振込 (三菱銀行虎の門支店 情報処理学会講習会普通口座 No. 4225437)  
(郵便振替は時間がかかりますから, 受け付けられません。)

(4) 申込者 氏名 \_\_\_\_\_ 会員 No. \_\_\_\_\_

連絡先 〒 \_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_ Tel. \_\_\_\_\_

(5) その他 (連絡事項をご記入下さい。)

- (注) 1. 申込書は1枚1人として下さい。(この用紙をコピーしたものでも可)  
2. 本学会賛助会員は1口1人として正会員に準じます。

## 第 8 回世界コンピュータ会議の論文募集について

第 8 回世界コンピュータ会議 (IFIP Congress 80) は、1980 年 10 月に、東京で開催されます。このほど Call for Papers の詳細が決定いたしましたので、次号の「情報処理」(第 20 巻 1 号) に英文で詳細に掲載いたします。投稿締切りは 1979 年 12 月 1 日となっていますので、投稿規程をよく理解いただき、早目に原稿の準備をおすすめください。

## 第 3 回日米コンピュータ会議論文集の頒布

去る 10 月 10 日～12 日、サンフランシスコ市で開かれた標記国際会議は、日本側 49 件、米国側 48 件、計 97 件の論文が提出され、所期の成果をえて無事終了いたしました。

つきましては、論文集 (Proceedings) の残部がありますので、第 1 回あるいは第 2 回の日米コンピュータ会議に参加の経験の方を含め、早目にお求めください。

**論文の大きさ** (国際判 514 pp.)

**会 員 特 価** 8,600 円 (郵送の場合 700 円加算)、ただし一般価格 11,500 円 (送料共)

**申 込 み 先** (社)情報処理学会第 3 回日米コンピュータ会議  
(電話または、はがきにてお申込ください)

**取 扱 銀 行** 第一勧業、三菱、住友銀行、各虎ノ門支店 (普通預金口座)、  
三井銀行日比谷支店 (普通預金口座)

## 創立 20 周年記念論文の公募について

情報処理学会では創立 20 周年を記念して、下記により「記念論文」を公募することになりました。会員の皆様には奮って応募されますようご案内いたします。

### 1. 応募資格

情報処理学会の会員 (正会員又は学生会員) であること。応募論文は下記の部門に分けて審査する。

**第 1 部門** 昭和 54 年 3 月末現在の学生会員又は 30 歳未満の正会員を対象とする。

**第 2 部門** 第 1 部門以外の正会員を対象とする。

ただし、同一論文に第 1、第 2 両部門の対象となる会員が含まれる場合は

## 第2部門として取扱う。

### 2. 論文の性格と書き方

- ア. 情報処理に関するオリジナルな論文であること。
- イ. 「情報処理」原稿執筆案内の書き方によるが、制限ページ数は12ページとする。ただし、論文はできるだけ簡けつにまとめることが望ましい。
- ウ. 論文は邦文に限る。
- エ. 論文には応募資格部門を明記すること。
- オ. 論文は正論文1部およびコピー5部を提出すること。

### 3. 応募方法と論文の書き方

- ア. 応募論文の受付期間は昭和54年1月1日から8月31日までとする。
- イ. 応募論文は記念論文査読委員の査読に基づき、記念論文選考委員会で採否を決定する。原則として論文の著者に照会することはしないが、採択決定後に執筆について助言することがある。
- ウ. 記念論文選考委員会は第1部門および第2部門につき、それぞれ下記を限度として受賞論文を選定する。

第1部門： 3件以内

第2部門： 5件以内

上記の受賞論文のうち、特に優秀なもの3件以内を入选論文とし、その他を佳作論文とする。

- エ. 選考結果は昭和54年12月31日までに論文の著者に通知する。
- オ. 選考結果は「創立20周年記念式典」において公表し、受賞論文の表彰を行う。
- カ. 受賞論文は「創立20周年記念会誌」に掲載し、又「創立20周年記念全国大会」において講演発表する。
- キ. 応募論文はIFIP Congress 80の論文と重複しないよう注意すること。重複した場合は受賞を取り消すことがある。
- ク. 入賞しなかった論文は著者の希望により一般論文扱いとする。

### 4. 表 彰

- ア. 各入选論文の著者の1人（原則として第一著者）に対しIFIP Congress 80参加費（日本—オーストラリア間交通費、会期中のオーストラリア滞在費、および登録費）を学会が負担する。ただし、参加者はIFIP Congress 80報告書を提出する。
- イ. 各佳作論文の著者の1人（原則として第一著者）に対しIFIP Congress 80登録費を学会が負担する。
- ウ. 受賞論文のすべての著者に対する表彰状および記念品を授与する。
- エ. 受賞論文1編につき論文別刷100部を贈呈する。

### 5. そ の 他

不明の事項については本学会事務局に問合せること。

## 「情報処理学会論文誌」購読・登録のご案内

1979年1月に現在刊行中の「情報処理」の中から、論文、ショートノート、誌上討論など、最新の研究成果を中心とした研究発表の場として、「情報処理学会論文誌」を分冊し、隔月（奇数月の15日発行、B5判、約100ページ）に発行します。欧文誌「JIP」と併せて是非とも購読されますようご案内申し上げます。

論文誌の購読は1月～12月の年間単位とし、購読料はつぎの通りです。

- (1) 年間購読料    会員 4,500 円 } (送料を含む)  
                     非会員 7,800 円 }
- (2) 一般頒布価格    1冊    1,500 円 (送料別)
- (3) 中途からの購読料    年間購読料 / 6 × 冊数

なお、購読は本会員の研究者が主体ですので、長期的に継続するものとして取扱います。購読者は以下の事項にご注意ください。

- (1) 購読を中止される場合は、必ず12月中に書面（ハガキも可）でご連絡ください。
- (2) 途中で購読を中止された場合は、すでに送付した論文誌を一般頒布価格で買い取っていただくこととなります。

申込みは、10月号添付の購読申込書に必要事項を記入し、代金を添えて「情報処理学会論文誌係」宛お申し込みください。（申込書にある注意5の〒115は〒105の誤りです。訂正ください。）  
Vol. 20, No. 1 の予定目次は、つぎの通りです。

### 論 文

- 人間による乱数列をマルコフ連鎖としてみたときの特性……………橘 文 夫
- Bフレーム・Mフレームを使用したミニコンリスプ FLISP ……………東出 正裕 他
- MLTG-マイクロプログラミング・ランゲージ・トランスレータ・  
ジェネレータ……………牧之内顕文 他
- Catalan 数の拡張とその応用……………今 井 貞 三
- 常微分方程式数値解法的设计……………渡辺嘉二郎 他
- 頂点辞書を利用して距離画像解析……………杉 原 厚 吉
- ブール行列の乗算アルゴリズムの高速化について……………高岡 忠雄 他
- スパース構造の連立一次方程式に対する Householder 法 ……………平 野 泰 彦
- ソフトウェア・モニタの方式設計とその応用……………宮崎 正俊 他
- 組合せ回路における多重故障の検出……………中 村 彰
- マクロ・アセンブラ・ジェネレータの開発……………渡辺 道生 他
- データベース照会システム「ヤチマタ」と名詞句データ模型……………藤崎哲之助 他

### ショートノート

- マクロコマンドによるソースプログラム生成方式の簡易形情報検索システム…………清野 武 他
- 紀一誠著“資源切り出し型待ち行列の解析”について……………伊澤喜三男 他
- 複素数の累乗根および逆数を求める反復法について……………佐 藤 幸 平

## 欧文誌の原稿募集について

本年4月に欧文誌“Journal of Information Processing”を創刊いたしました。同誌に論文発表を希望される会員は、下記を参照のうえ原稿を寄せられるようご案内いたします。

### 1. 欧文誌発行の目的

わが国の情報処理の研究水準向上のため、情報処理に関する諸研究の国際交流をはかる。

### 2. 発行計画

(1) 50ページ×4回/年=200ページ, A4判

(2) 純学術研究発表誌とし、PaperとShort Noteを募集する。

(i) Paper(原則として刷上り8ページ以内)——「情報処理」掲載の論文と同じ査読規準に基づき、欧文誌編集委員会で採録を認められた欧文論文。

(ii) Short Note(2ページ以内に限り)——「情報処理」掲載のショート・ノートに準じて、採録を認められた欧文による小論文。

### 3. 「情報処理」との関連

PaperとShort Noteの和文アブストラクトを「情報処理」に掲載する。

### 4. 論文原稿の書き方

(1) 用紙はA4判(21cm×30cm)の白紙を使い、1行65ストローク、ダブルスペースで上下3cm(強)の余白を残し、パラグラフは初めを5~6字分あける。この様式で原稿をタイプした場合(図表なしで)24枚で、欧文誌刷上り8ページに当る。なお文章中指定のない場合の記号は立体、数式中の記号は斜体(イタリック)となる。

(2) 査読の都合上、タイトル、氏名、所属およびアブストラクトを和英両語で別紙に記述する。なお和文アブストラクトは英文アブストラクトの邦訳とする。

(i) Paperのアブストラクト——200語以内

(ii) Short Noteのアブストラクト——50語以内

(3) 図表(写真を含む)は、完成図(そのまま縮小製版できるもので、縮版した場合の希望のできあがり寸法を指定する。なお、文字は縮版のさいも読める大きさに書く。)を本文と別にし、説明文は別紙にまとめてタイプし、本文の末尾につける。ただし原稿中に図表のそう入場所を指定する。

(4) 寄稿のさいキーワード表を添付する。(用紙は欧文誌係にご請求ください。)

### 5. 原稿の送付

(1) オリジナル原稿とコピー3部、計4部を送付する。

(2) 送付先: 情報処理学会「欧文誌係」

〒105 東京都港区芝公園 3-5-8 機械振興会館 308-3 号

### 6. 別刷料

下記の通り別刷100部を印刷実費の一部として、ご負担いただきます。

ページ	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
別刷料	5,000	10,000	15,000	20,000	25,000	30,000	35,000	40,000	55,000	70,000



## 欧文誌 “JIP” のご購入について

欧文誌 “Journal of Information Processing” (略称 JIP) は、4月に創刊されました。第4号は来年1月下旬に発行される予定です。購読希望の方は、第19巻1号あるいは2号の本欄の申込用紙をご利用のうえ、お申し込みください。

## 情報処理学会刊行図書

★好評発売中!

## Journal of Information Processing

欧文誌編集委員会 (委員長 北川敏男)

オリジナル論文を global にできるだけ早く紹介するために、1978年4月に創刊された。  
「情報処理」掲載論文とあわせて、本学会の代表論文は網羅される。

A4判 60ページ  
季刊 (年4回)  
会員頒布 3,000円  
非会員 (国内) 6,000円  
" (国外) 7,000円  
(1部1,800円送料200円)

## コンピュータ・システムの高信頼化

東京大学教授 猪瀬 博 編著

本書は高信頼化技術のシステムの側面の諸手法を述べるとともに、典型的な実例をとりあげて具体的に解説し、コンピュータ・システムの高信頼化技術を体系的に記述した他に類をみないユニークな名著である。


A5判 504ページ上製箱入  
会員特価 5,000円  
定価 6,500円  
(送料1部 300円)  
内容見本希望の方は学会あてハガキでお申込みください。

## CODASYL データベース用データ記述言語

データベース言語研究委員会 訳

第1章 序、背景および歴史 第2章 主要な概念  
第3章 データ記述言語 (DDL)  
訳者付録: CODASYL データベース用データ記述言語によるプログラムの例、COBOL データベース機能の概要  
索引: 英和索引, 和英索引

B5判 206ページ  
会員特価 2,300円  
定価 3,000円  
(送料1部 200円)

社団法人 情報処理学会  電話 03-431-2808 振替東京5-83484  
〒105 東京都港区芝公園3-5-8 機械振興会館内